

# 運輸安全マネジメント

・「運輸安全マネジメント」とは・・・輸送の安全確保が最も重要であるという意識を社長から全ての運転者まで共有し、一体となった安全管理体制を構築するとともに、その体制を継続的に改善し、輸送の安全性を高めていくことを目的とした制度です。  
 ・何をすれば良いのか・・・「Plan(計画)」▶「Do(実行)」▶「Check(チェック)」▶「Act(改善)」を継続的に繰り返すことによって、輸送の安全のレベルアップを図ります。また、毎事業年度にその取り組み内容を公表しなければなりません。

(株)ライフサービス魚沼

令和7年度

計画【Plan】			実行【Do】		チェック【Check】	改善【Action】	
安全方針 (輸送の安全の確保に関する基本理念として、安全管理に関わる全体的な意図及び方向性を明確に示した『安全方針』を作成し、社内に周知徹底する)	安全方針	法令順守と社内規定・要領に則った安全運行	安全統括管理者の取組	安全管理体制の推進役としてPDCAサイクルを回していく	<内部監査>  安全管理体制の社内チェックを1回/年行うことにより安全管理体制の課題及び問題点を明らかにする 安全目標の達成状況と安全管理の取組状況を確認する ※重大事故等が発生した場合には緊急に社内チェックを行う	<マネジメントレビューと継続的改善>  明らかになった課題等を踏まえ少なくとも1年毎に経営トップが主体的に関与して安全管理体制を評価し継続的に見直し・改善を行う	
		安全運行が最優先		社内周知			安全管理体制を確立し・実施し・維持し・改善する
	社内通知	日々安全運行の社内教育にて周知	社内周知	安全運行確保に向けた取り組みをする為に関係者の責任と権限を明確にして内部に周知する			
安全重点施策 (安全方針に沿い、かつ、自社の安全に関する課題に基づき、年に1回輸送の安全の確保に関する『目標』を設定し、目標を達成するために必要な『計画』を作る)	目標	人身事故ゼロ	情報伝達及びコミュニケーションの確保	社内の的確な情報伝達及びコミュニケーションを確保し風通しの良い組織づくりをする			
		酒気帯び運転・速度超過の撲滅	事故・ヒヤリハット情報等の収集活用	朝礼・社内教育で周知する小集団活動によりコミュニケーションの活性化を図る			
		社内教育時に安全方針等を記載した資料を使う	重大な事故等への対応	管理者と運転者の安全に関する意見交換会を行う			
	計画	月2回の安全教育の実施	関係法令等の遵守の確保	事故情報を分類整理して再発防止に努める			大きな事故等が発生したときは特に発生直後の対応によって被害の大小が大きく左右されます。あらかじめ対応ルールを定めておくために、全社的な訓練を行う
		ヒヤリハット報告会の実施	安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等	ヒヤリハット情報を収集分析して事故防止に活用する			安全運行に必要な関係法令・通達及び事業者で定める規則を遵守するとともに安全統括管理者等はそれらの遵守状況を定期的に確認する
							安全管理体制を適切に運営して安全文化を保っていくために経営管理部門及び運転者等に対して定期的・計画的に必要な教育・訓練等を実施する